Kwansei Gakuin University

在日日系ブラジル人労働者達の生活*
── セブンスデイ・アドベンチスト教会信者達の例 ──

川久保　美智子**

1．はじめに

2006年９月11日の『日経ビジネス』の特集記事に「こんな国では働けない　―外国人労働者「使い捨て」の果て―」というものが載っていた。その記事によると日本では出生率の低下に伴い労働者不足に悩まされてきた。特に若い労働者の減少や、「きつい、汚い、危険」の３Ｋ職場は恒常的な人手不足であった。これを補うために外国人労働者を受け入れてきたが単純労働者の受け入れは認められていないので高度の専門的、技術的分野の人材に限られていた。これでは底辺の労働者不足を補うことはできないので研修生・技能実習生という名目で外国人を日本に受け入れて実際には仕事をさせていたのである。しかし、その場合には滞在期間が３年と限定されている。2006年９月22日の日本経済新聞によると研修・技能実習の名目で働く労働者の在留期間を最長で３年だったものを５年に延長し、さらに現在は縫製、畜産、農業、食品加工、建設、機械・金属など62の業種・職種に限っているが対象業種も拡大する方向に体制整備に乗り出すとのことである。また、従業員の５％を上限としている受け入れ基準の引き上げも検討するとのことである。研修生を労働基準法や最低賃金法の規制対象に加え、不正雇用への罰則も強化する方向にするとのことである。今までは研修・実習ということで最低賃金以下の報酬で外国人を働かせていた企業もそのようなことはできなくなるのである。

また、1990年に出入国管理法が改正されて日系ブラジル人や配偶者に就労制限のないビザが発行されるようになった。その結果、「日系人・日本人の配偶者等」の外国人労働者数は10万人以下だったのが年々増加して2004年には23万人台になってきた。現在日本には外国人労働者は約80万人以上いるといわれている。これらの外国人労働者は90％以上が製造業で働いており日本の労働は外国人がいないとストップしてしまうというのが現実である。外国人労働者の中には就労ビザが期限切れになってもそのまま日本に滞在している者も多数いるようである。しかし、違法滞在者を一斉摘発して強制帰国させたら会社がやっていけなくなってしまうというほど日本の企業は外国人労働者に依存しているのが現実である（日経ビジネス、2006.9.11）。

今回は外国人労働者の中で日系ブラジル人を取り上げ彼らがどんな生活をしているのか、またどんな問題を抱えているのかを探ってみたい。日系ブラジル人が最も多いのは静岡県である。その中でも特に浜松市に多く３万人以上もいるのである。浜松市にはホンダ、スズキ、ヤマハをはじめ沢山の工場があり、外国人労働者が必要とされている。このように沢山のブラジル人がいると子供の教育もポルトガル語でする学校もできた。また、ブラジル人の生活の重要な部分を占める宗教もポルトガル語で提供する教会もできた。ブラジル本国での宗教はローマカトリックの信者が最も多く70％以上を占めており、次がプロテスタントで15％強である。その他の宗教としては心霊派、日本の仏教、神道、創価学会などがある。今回はプロテスタントの中の１つの宗派である、Seventh-Day Adventist（セブンスデイ・アドベンチスト）教会に属するメンバーの生活について調査した結果を報告する。

*キーワード：在日日系ブラジル人労働者、セブンスデイ・アドベンチスト
**関西学院大学社会学部教授

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

2．調査方法

調査方法は信者達と一緒に礼拝やキャンプに参加して信者達から色々話を聞いたりした参与観察とインタビューである。インタビューで質問する項目は全員同じであるが、日本語がわからない信者がほとんどであるのであらかじめ日本語で用意した質問をポルトガル語に翻訳してそれに記入してもらいさらにその後1人1人に内容の確認ともっと詳しい話を聞いた。インタビューは日本語とポルトガル語が堪能な牧師に通訳をお願いした。質問の内容は名前、性別、年齢、学歴、家族構成、日系何世、電話番号、メールアドレス、住所、住宅などの個人情報の他に日本に来たのは何時で何の目的で来たのか。日本には何年くらい滞在する予定であったのか、これから何年くらい日本に滞在する予定か、日本には知り合いがいるか、現在の在留資格は、仕事は、正社員か臨時雇いか、年収、転職回数、ブラジルでの職業、どのようにして仕事を見つけたのか、日本に永住したいのか、友達の数、日本人との付き合い、日本語能力の程度、ブラジルへの帰国回数、子供の教育はどこでしたいか、教会活動にはどの程度参加しているか、日本の生活で良い点、困っている点、ブラジルの生活の良い点、悪い点、派遣会社のサービスに満足しているかどうか、さらに派遣会社にどんなことを望んでいるか、日本で人種差別を受けたことがあるか、受けた場合にはどんな時受けたか、最後に何か問題がある時には誰に相談するかという質問をした。

3．調査結果

在日ブラジル人対象のセブンスデイ・アドベンチスト教会でポルトガル語で礼拝を行っている教会は私の知る限りでは日本にはまだ3ヶ所しかない。浜松市、掛川市と千葉市である。浜松市と掛川市の教会には約50名の信者がおり、千葉市に約30人、豊田市には約10名、刈谷市とその他の地域に約10名の合計約150名の信者がいる、豊田市と刈谷市の場合にはまだ教会の建物はなく支部という形である。掛川市の教会も数年前までは牧師の自宅に信者が集まっていたが信者の数が増えて狭くなり、廃屋の工場を借りてリフォームして教会にしたのである。1ヶ月の家賃は15万円で信者の献金で支払っている。1階にはキッチンとダイニングルーム、パーティなどを開催する大広間、託児所、トイレなどがあり、2階は礼拝堂になっている。他のキリスト教の教会のように屋根に十字架もないので外見からは教会の建物であることは全然わからない。

今回は掛川市の教会に属するブラジル人の信者達と年1回開催されるサマーキャンプへの参加者から色々話を聞いてそれをまとめて報告する。掛川市は浜松市から6つ目のJR東海道線の駅である。駅前にはNHK連続テレビ番組「功名が辻」で有名な山内一豊の掛川城がある。掛川市にも浜松市に次いで多くのブラジル人が住んでいる。信者の数も浜松市と同じであり、掛川市にも沢山の工場がありブラジル人の労働者達が大勢派遣会社を通してあちこちの工場に送り込まれている。

セブンスデイ・アドベンチストは偶像崇拝を禁止しているので十字架やキリスト、マリアの像などはいっさいない。十字架のネックレスさえもしない。また、この宗派は土曜日が安息日であるので礼拝は毎週土曜日に行われる。お酒もタバコも禁止されている。食事制限も厳しくて、基本的には菜食主義であるが豚肉以外なら食べても良いことになっている。魚介類もエビ、イカ、タコ、貝などは食べることができない。主食はパンやお米、大豆であるがパンも白いパンではなくて胚芽小麦などを使った物を食べている。肉の代わりに小麦から抽出したグルテンを食べてタンパク質を取っている。このようなグルテンを使用した肉の代用食品、例えば、肉は使わないでグルテンで作ったハム、ソーセージ、肉団子、ハンバーグ、ベーコンなどを専門に製造して販売している会社が千葉県にある。お米も白米よりは玄米を食べるようにしている。ラーメンなども豚の脂を使わない製品を製造している。ブラジル人が食べる食品や日用品だけを専門に販売しているスーパーも何店かできた。

教会では毎週土曜日の9時から礼拝が始まる。家族全員で参加するので小さな子供は教会内の託児所に預けて当番の女性が面倒を見ることになっ

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

ている。信者の中には神奈川県秦野市から毎週家族４人で通っている者もいる。毎週５時に起床して６時に家を車で出発して東名高速道路を３時間以上かけて通うのである。時には５，６時間かかることもあるそうである。８月のお盆帰省の時には渋滞に巻き込まれて教会に到着したのは午後１時だったとのことである。

最初は賛美歌などを歌う。信者が交代で前に出てマイクを使って賛美歌をポルトガル語で歌う。他の信者達も起立して一緒に歌う。皆の前で歌うのは交代で次々に違う信者が歌う。子供達も歌っている。その次にお祈りがあり、献金をする。それが終わったら聖書の勉強会でいくつかのグループに分かれる。子供達のグループ、青年達、大人達、また、ポルトガル語がわからない人のためには日本語のグループもある。日本で生まれた子供達の中にはポルトガル語がわからない者もいるのである。そのような子供達のためには日本人の牧師が日本語で教えてくれるのである。それが終わったらまた礼拝である。賛美歌を歌ったり牧師がお話しをしたりして、献金をして12時頃すべてが終わる。

その後にみんなが１品ずつ持ち寄った料理でランチを全員で食べる。ご飯だけは教会で炊いて暖かいご飯と信者達が持ってきた料理を一緒に食べるのである。秦野市から通っている家族はランチも食べないですぐに帰るのである。食事が終わったら解散で自宅に帰ったり友人宅に遊びに行ったり、牧師の家を訪問したり、自然の中を散歩したり自由である。この日は安息日であるので働いてはいけないことになっている。会社から仕事を頼まれても断るのだそうである。その理由を聞かれて安息日には働けないと説明したら理解してくれたとのことである。中には理解してくれなくて解雇された人もいるようである。日曜日には働くことができるので仕事があれば働く者もいるようである。

サマーキャンプ

この教会では毎年８月のお盆休みに４，５日のキャンプをしながら、日本中から信者が集まって宗教活動をする。日本のお盆には会社も休みになるのでそれを利用してキャンプをするのである。近くのキャンプ場を借りてコテージやテント生活をしながら宗教的なつどいをするのである。今年は100名前後の信者が参加した。いつもの牧師の他にもブラジル本国から牧師を招待して特別礼拝をしている。今年はサンパウロ市のある大学で宗教主事をしている牧師を招待した。牧師の旅費や滞在費は信者達が寄付した献金でまかなうのである。私も今年の８月このキャンプに参加してブラジル人達と生活を共にした。毎年場所は変わるのだが近郊にある車で１，２時間で行くことができる大井川の上流やその他の川の上流などに行くようである。今年はJR藤枝駅から山の方に入った所にある大久保キャンプ場に行った。このキャンプ場は以前は市営であったが最近民営になったのである。キャンプ場の近くにはグラススキー場、陶芸センター、宇嶺の滝、温泉、スポーツセンター、ゴルフ場等もあり色々な遊びが楽しめる。料金も安くてコテージが１泊8,150円、キャンプサイトが1,010円、テントを借りる場合には510円である。テントも職員が組み立ててくれるので誰でも簡単にテント生活を楽しむことができる。食事も自炊ができるし、バーベキューができる設備も整っている。キャンプ場内には食堂もあり、簡単な食事ならできる。

まず、８月16日（水曜日）の午後２時からキャンプ場に入ることができるのだが、それより早くキャンプ場に来て近くの河原で遊んでいる家族もいる。キャンプ場の横に小さな川が流れており水はきれいで冷たくて気持ちがいい。最初は冷たくて入ることができないがしばらく足を入れていると慣れてきて泳ぐことができるようになる。この川からキャンプ場に水を引き込んで子供用のプールが作ってある。午後２時になるとみんな車から荷物を運び出してリヤカーに乗せて自分のコテージかテントまで運ぶのである。キャンプ場内には車で入ることはできないからである。近くにオートキャンプ場もあるがそこならもちろん車のまま入ることができる。４泊５日のキャンプだがみんな沢山の荷物を持ってきている。リヤカーで何回も運び込んでそれらをテントの中に整理整頓して入れてハンモックなども近くの木に掛けたりしている。ペットは持ち込み禁止であるがインコなどの小さなペットはみんな持ち込んで鳥かごを木の

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

枝に掛けている。子供がいる家族は荷物が多くて大変である。やっと、荷物の整理ができた頃にはもう夕方である。食事は当番で5，6人ずつが作る。5日間で5千円の食券を購入すれば毎日食事が食べられる。ここでも食事に肉類は一切でないですべて野菜や穀類である。パンは信者の女性達がキャンプに来る前に教会で焼いた胚芽入りのパンを持参している。それをスライスして2，3枚ずつ配ってくれる。料理は毎日野菜入りのスープの様な物をパンかご飯に掛けて食べる。デザートもありスイカやぶどうなどの果物か甘いお菓子類である。食事の前にみんなで賛美歌を歌ってお祈りをしてから食事を始める。みんな持ってきた折り畳み式イスに座って食べたり、芝生に座ったり、コテージの中にはテーブルとイスがあるのでそこで食べたり自由である。

食後は当番の人が食器を洗って片づけもする。他の人たちはしばらくの間歓談して自然を満喫している。テレビもないので何もすることがないのである。話をするか本を読むかである。子供達はゲーム機を持ち込んで夢中になっている。今日は天気も良く星空がきれいである。しかし、夜から雨が降り始めた。コテージの人たちはいいがテントの人たちはどうであろうか。雨が漏るようなことはないし地面にもすのこが引いてあるので大丈夫そうである。

8月17日（木曜日）の朝も少し雨が降っていた。朝食は7時からである。みんなが集まったら賛美歌を歌ってお祈りをして食事をいただく。朝食は簡単なもので食パンかシリアル、果物、豆乳、牛乳などの飲み物である。その後皆に質問票を配布して回答して頂く。回答してくれた人には御礼にブラウス、ストッキング、Tシャツなどを配る。日本語の読み書きができる人は少ないのでポルトガル語に翻訳しておいてよかった。70名が回答してくれた。まだ休みが取れなくて来ていない人もいるとのこと。金曜日の夜か土曜日の朝から参加する人もいるとのことでその人達には後でまたお願いすることにした。このキャンプには北は千葉県、南は沖縄県から100人くらいの信者が集まるのである。今日の午前中は特別な行事もなくその後は自由行動で各自好きなことをして過ごす。ランチはまた賛美歌とお祈りをしてからいただく。日本のカレーライスに似た食事である。しかし、お肉は入っていなくてグルテンで作った肉の代用品が入っていた。味と歯ごたえはお肉のようである。しかし、お肉が大好きでどうしても食べたい人は自分で肉を買って来て自炊していた。午後2時から宗教行事があり全員参加である。それが終わったら7時から夕食。食後8時から浜松の教会信者達による集会があり、9時からも集会、10時からも集会がありそれが終わってやっと就寝である。

8月18日（金曜日）朝食のあと色々な宗教行事がある。ランチを食べて一休みしてから近くにある滝に行った。大きな滝で夏でも水は沢山流れていた。空気は大変美味しくマイナスイオンたっぷりである。水も大変冷たくて長い間入っていることはできない。みんな大はしゃぎしながら写真を撮ったりして楽しんでいた。滝の下まで行って流れ落ちる水に打たれている者もいる。この滝には悲しい物語が地元の人たちによって伝えられている。昔々ある女性が恋をしたがその男性に裏切られて絶望しこの滝から身を投げて自殺をしたそうである。その後その滝を男性1人で訪れると滝に引き込まれて死んでしまうという怖い話である。滝から帰って来て夕食を頂く。夜も色々な宗教行事があり10時の行事が終わってからやっと就寝。

8月19日（土曜日）は安息日の礼拝の日である。朝6:30から各種の行事があった。全員集合して行われる場合もあるし、いくつかのグループに分かれて行われる場合もある。ブラジル本国から招待した牧師もお祈りや説教を何度もする。空いている時間には若い人達と足を泥まみれにしてバレーボールをしていた。年齢は60歳以上であるが大変元気な牧師である。今日は最後の日である。年齢別に分かれての勉強会や女性のグループだけのセッションもある。結婚生活の問題に関してのカンセリングが専門家によって行われた。ランチを食べてまた色々な行儀があり5時から洗礼の儀式が始まる。今年は7人が洗礼を受けた。洗礼をする前に色々なお祈りや賛美歌を歌って祝福する。東京にある日本人の教会から駆けつけた牧師が日本語で挨拶をする。それをポルトガル語に通訳して儀式が始まる。7人の内訳は男性が2人女性が5人である。この教会では洗礼は赤ちゃんに

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

は行わない。自分の意志で入信ができるようになってからである。全員Tシャツを着て1人ずつプールの中に入っていく。牧師が抱えて水の中に押し込んですぐに出してくれる。信者は鼻をつまんで水を吸い込まないようにしている。それで儀式は終わりである。しかし、1人ずつ賛美歌を歌ったり終わったあとまた賛美歌を歌うので時間がかかった。牧師はその間冷たいプールの中でぶるぶると震えて待っていた。全員が終わってからまたブラジルから招待された牧師がプールの中に入ってお話しをする。洗礼を受けた人たちは皆から祝福されて抱きしめられてキスをされている。感激して涙ぐんでいる親子もいた。それを見ている人たちも感激して涙を流していた。

夕食後、今日は最後の夜であるから仮装大会があった。みんなカツラをかぶったりしておもしろい格好をして集まった。女性達は日本の浴衣を持ってきた人たちが何人かいたが、着方がわからないらしい。そこで私に着付けを頼みに何人も来たので私は大忙しであった。私自身は浴衣を持ってこなかったがブラジル人の浴衣姿もまたよいものである。あるお母さんの浴衣姿を見て14歳の息子はとってもセクシーだと言った。浴衣の襟元がゆるんで胸元が見えていたからである。本当はそのような着方ではいけないのであるが着付ける方も忙しくてちゃんとできなかったし、着る方もどのように着ればよいのかわからないのでそのような着方になってしまったのである。とにかく、皆それぞれ好きな格好をして広場を歩き回っておもしろい格好をしている人を見ると写真を撮ったりして大笑いしていた。アメリカのハロウインを思い出した。最もおもしろい格好をした人には賞が与えられた。

8月20日（日曜日）今日は帰る日である。いつものように朝食を取った後最後の礼拝があり、その後皆は持ってきたものをまたリヤカーに積み込んで自動車に乗せる。ゴミもすべて持って帰らなければならないので来たときよりも荷物が増えているようである。最後に皆お互いにお別れの挨拶をして、また来年のキャンプでの再会を約束して各自帰っていった。色々片づけなどをしていたら12時頃やっと帰ることができた。お腹が空いたので途中の回転寿司屋に寄ってランチを食べる。と言ってもセブンスデイ・アドベンチストの信者達は食べてはいけない物がいろいろあるので気をつけなければならない。卵は大丈夫、マグロもいいけれどもイカ、エビ、貝類は食べることができない。これではお寿司も十分に楽しむことはできないではないか。それでも美味しそうに食べていた。キャンプでゆっくりしたので疲れが取れたかと思いきや盛りだくさんの行事で皆疲れたようである。帰りの途中で温泉に寄ったりしている人たちもいた。年1度の楽しみも終わってまた明日から仕事が始まると思うと暗い気持ちになると言っている人もいた。質問票は後から来た信者にも書いて頂いて合計80枚になった。

質問票の結果

質問票はキャンプ場で80枚回収され、その次の26日の土曜日の礼拝で、キャンプに参加しなかった信者6名にも回答して頂いて有効回答数は86票である。男性43%、女性57%である。年齢は15歳から57歳で平均年齢は33.19歳である。合計学歴年数は5年から20年で平均11.20年である。ブラジルでは義務教育は小学校8年と中学校3年の合計11年であるがそれさえも終了していない者もいる。これは日本に来て日本の学校に入学しても言葉がわからなくて途中で辞めてしまった子供もいると思われる。または、ブラジルでの義務教育を終了する前に日本に来て日本の中学には行かないでそのまま仕事をしているかである。義務教育の11年の教育を受けていない人が11.6%もいるのは問題である。その他の人は高校卒が14%。大学は卒業していないが高校卒後1年から3年の教育を受けた者が16.4%いる。大学卒は3.5%、それ以上の教育を受けている者が7%いる。

日本での住居地は静岡県が最も多く60.5%で、次が愛知県16.3%、千葉県が7%、神奈川県が4.7%、群馬県、刈谷市、沖縄県がそれぞれ1.2%ずつである。静岡県の中で最も多いのが菊川市で30.2%、浜松市が9.3%、岩田市が8.1%、掛川市が4.7%である。

単身で来日した者が18.6%いるが残りの者は既婚者である。夫婦2人だけの者が35%、子供もいる者が65%である。子供の数は1人が15.1%、2人が30.2%で最も多い。3人以上が19.8%もい

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

て、少子化の日本から見るとうらやましい限りである。ブラジルでは初婚年齢が早くて14歳で18歳の男性と結婚してもう２人の子供がいる若い夫婦もいた。また、15歳で結婚して子供を次々と５人産んで40歳でもう孫が何人もいる若いおばあちゃんという女性もいた。子供５人を連れて来た単身女性もいた。この女性は離婚して女手一つで５人の子供を育てているのである。

ブラジルに最初に移民として渡った人たちが１世でありその人達はもうかなりの高齢者であるから日本に出稼ぎに来ることはできないのでほとんどの人は２世以上である。２世が19.8%、３世が38.4%で最も多いが５世も36%いる。４世が少なくて3.5%だけである。

住居は県営住宅に住んでいる人が最も多く44.2%である。県営住宅は収入制限があるのでそれ以下の収入でないと入居資格がないわけであるが、ブラジル人達の収入は多くないのでほとんどの場合入居資格があるのである。年収は300万円以下が58.1%で過半数を占め、500万円以下が20.9%いるがそれ以上は少ない。県営住宅は家賃が一般住宅と比較して安いので希望者が多いが、入居できる人数は限られている。また、単身者は入居できなくて２人以上の家族でないと資格がない。 家賃はだいたい２LDKで５万円以下である。次に多いのは社宅であり26.7%である。社宅も一般住宅より家賃は安いが正社員でないと入居できない。派遣会社から派遣された場合には正社員ではない場合が多いのでこのような場合には民間のアパートに入居するしかないのである。このような人が17.4%いる。もう日本に長い間住んでいて永住を決めた人は１戸建て住宅を購入している。このような人はまだ少ないが8.1%いる。

来日年数

いつ日本に来たかというとまだ１ヶ月前に来たばかりの人から24年間も住んでいる人もいる。したがって、現在の住居に住んでいる年数も１ヶ月から17年の人もいるのである。２，３年という人が最も多く70.9%で過半数を占めている。日本に来たときには何年くらい滞在しようと考えていたのであろうか。１年だけ滞在するつもりで来た人が18.6%、２年くらいの予定だった人が26.7%、３年くらいの予定だった人も26.7%で75.6%は２，３年日本で働いて帰国する予定で来日していることがわかる。しかし、その予定は計画通りには終わらないでそれ以上日本に継続して滞在している人が多いのが現実である。

では、日本に来てから何回くらい帰国したことがあるか質問した結果まだ一度もないという者が40.7%と最も多いのである。次は１回だけ帰国したという者が23.3%である。２回が12.8%である。３回が10.5%で、平均すると1.65回である。滞在年数が長くなるほど帰国回数も増えるのは当然である。

希望滞在年数

これからも日本に滞在したいかどうかという質問には滞在したいと考えている者は60.5%で過半数を占めている。そう思わない者は18.6%でわからないという回答は16.3%である。では、何年位滞在したいと考えているのであろうか。１年未満の者が18.6%であるが３年未満と考えている者は26.8%、５年未満が13.9%、６年以上が23.3%である。日本にずっといたいという者も10%いるが、永住したいと思うかどうか聞いてみたら59.3%の過半数は永住したいとは思っていないようである。永住したいと考えている者は31.4%で約３分の１である。残りの者はまだ決心していないのか無回答である。

来日目的

日本に来た目的はやはり出稼ぎが最も多くて74.4%を占めている。その地の理由としては結婚するためとか留学目的できたとか、親族訪問などである。したがって、在留資格も就労ビザが最も多く48.8%を占めている。もうすでに永住ビザを獲得している人も33.7%に上っている。日本には親戚や知り合いがいたかどうかであるが親戚がいるという者は88.4%でほとんどが親戚を頼って来日したようである。また、友人がいた者が36%、知人がいた者が14%、誰も知り合いがいなかったという者は１人だけである。やはり１人だけで全然知らない国に出稼ぎに来るのは不安であろう。先に日本で働いている親戚や友人から話を聞いて自分も行きたいと思うようになったという者が多

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

い。一時帰国した親戚の者達からお土産をもらったり、色々話を聞くと日本での生活は高賃金で豊かな生活ができると思ってしまうようである。帰国者達は沢山のお金を送金しているし、立派な家を建てたりしているのでうらやましく思い自分も沢山のお金を稼ぎたいと思うのであろう。ブラジルではそれは不可能に近いので、日本に行こうということになるのである。

来日前の職業

日本に来る前にブラジルではどんな職業に就いていた人たちが日本に出稼ぎに来たのであろうか。学生だったという人が最も多く18.6%である。ブラジルで高校を卒業してすぐ日本に出稼ぎに来たのである。ブラジルでは不景気でよい就職がなく、たとえ何とか就職できたとしても賃金も安いし失業率も高いので日本に行って2，3年働いてお金を貯めて帰国して家などを建てようと考えている人が多いようである。その他の人達は何らかの職業に就いていたが日本の方が賃金が高いので出稼ぎに来たようである。ついていた職業は様々であるが最も多いのはホワイトカラーである。中には公務員や教師、技師、コック、経理、軍人もいる。

日本での職業

では、日本ではどんな職業に就いているのであろうか。ほとんどが工場のオペレーターで58.1%の過半数を占めている。年齢や学歴、経験に関係なくである。これはどうしてかというとブラジル人達が日本に来て職を探す場合最も簡単な方法は派遣会社に依頼することである。言葉もわからないしどこでどんな求人があるのかもわからないからである。日系ブラジル人を専門に派遣している会社もかなりある。そのような会社はあちこちの日本企業にブラジル人を派遣している場合もあるし、ある1つの企業と専属契約を結んでその企業にだけブラジル人を派遣している場合もある。後者のある1つの派遣会社ではブラジル人労働者約150人を絶えずある企業に派遣している。毎月2，3人が退職するがその補充もちゃんとしている。

労働者の賃金が1日8千円であればそのうち派遣会社が2千円差し引き残りの6千円を労働者に支払うのである。企業は賃金を労働者に直接支払わないで全員の給料を派遣会社にまとめて支払い、派遣会社はそこから差し引いた残りの分を各労働者に支払うのである。差し引いた分から色々な経費を引いた分が派遣会社の利益になるのである。この派遣会社では社長と部長と社員5，6人で有限会社を経営している。ブラジル人150人を毎月専属企業に派遣していれば社員の給料を払って経費を引いても十分にやっていけるのである。

ほとんどのブラジル人達は残業を希望しているので1ヶ月の給料はかなり多くなる。その中から生活費をのぞいた残りは貯金したり、ブラジルの親に送金したりしている。短期間でできるだけ沢山稼ごうと考えているので残業がある方が喜んでいるのである。残業がないと収入も少なくなるのでそのような企業は退職者が多くなる。

では、現在の就職先をどのようにして見つけたかというと最初は派遣会社に依頼する人が多く、39.5%であるが、次には知人の紹介などで見つける人が多く30.2%である。ハローワークや求人広告を見て応募した人もいる。日本語がわからないと派遣会社に頼る人が多いが、日本語がわかるようになると自分でも求職活動ができるようになるのである。

日本語能力

ブラジル人達は日本語をどの程度理解しているのであろうか。自己評価であるが読み書きがよくわかるという人は16.3%である。まあ、わかるという人は27.9%で、あまりわからないという人が24.4%、全然わからない人がもっとも多く30.2%である。

では、会話の方はどうであろうか。こちらの方も全然わからないという人が最も多く30.2%である。次にまあわかるという人が29.1%いる。よくわかる人は18.6%である。あまりわからない人は20.9%である。日本語がわからないと日本で生活するのは不自由であろう。したがって、仕事も言葉を使わなくてもよい単純労働に集中しているのである。日本に来てから生まれた子供達は両親が家でポルトガル語を話している場合が多いので最初にポルトガル語を覚える。保育所に預けられる場合、日本の保育所に行けばそこで日本人の子供

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

達から日本語を覚えるが、ブラジル人が経営している保育所に行くとそこではすべてポルトガル語が使われているので日本語は全然覚えることができない。幼稚園や小学校に行くとすべて日本語なのでそこでとまどいつまずくのである。しかし、子供は両親よりも早く日本語を覚えるものである。日本語を話さない両親に通訳したりしている子供をよく見かける。

教育問題

ブラジルで生まれて小学校の途中で日本に来た子供達は大変である。いきなり全然言葉がわからない学校に放り込まれて最初は何もわからなくて授業はただの苦痛である。このような子供が多い学校ではポルトガル語と日本語がわかる補助教員を手助けとして配置している様である。しかし、日常会話程度の日本語はかなり早く覚えるようであるが、授業についていけるだけの日本語を習得するには時間がかかるようである。

ある1人の少年は小学校2年生の時日本に両親と一緒に来日した。彼はブラジルで生まれ育ったので日本語は全然わからない。日本に来てから日本の小学校に入学することになったが途中から2年生に入るより次の年の4月から1年生として入学して日本語を基礎から勉強した方がよいだろうとの両親の考えでそうした。日本語の会話はすぐに覚えたが授業についていくのは大変だったようである。成績もずっと最低で上がることはなかった。6年後中学に進学したがそのころには日本語もだいぶ習得していたがやはり成績は最低でほとんどが1で体育と図工だけが3であった。このままでは高校にも進学できないだろうと本人も両親もあきらめている。彼の姉は日本で生まれ3年間日本で生活した。日本語の会話はできるようになったが4歳の時ブラジルに両親と帰国した。せっかく覚えた日本語はすべて忘れてしまい、その代わりにポルトガル語を覚えた。数年後にまた日本に来たが日本語は全然覚えていなかったのでまた最初から勉強しなければならなかった。日本の中学に進学したが成績は悪く高校進学はできなかった。仕方なく就職したが低賃金できつい仕事に耐えられなくなり1人でブラジルに帰国した。ブラジルでも高校に行かなくても独学で高校卒業資格の試験に合格すれば大学に入学することができる。彼女はその試験を受けて見事合格し現在はブラジルの大学に入学し自分でアルバイトをしながら勉強中である。

もう1人の姉も日本で生まれて日本の保育園に通ってすぐに日本語は覚えた。小学校にも行き成績もよかった。中学にも無事進学でき卒業もできた。それからまたブラジルに帰国した。ブラジルで高校に進学し卒業して大学にも進学した。しかし、また両親が日本に来たので大学を中退して彼女も日本に来た。日本では工員の仕事しか見つからなかった。その職場で知り合った日系ブラジル人と結婚して子供も産まれた。配偶者も出稼ぎ労働者で母親と兄弟はブラジルにいる。結婚するまでは母親に毎月送金していたが結婚して子供もできたので送金は無理になった。彼女は妊娠を機に仕事を辞めて家庭に入ったので収入が半分になったからである。結婚当初は県営住宅に住んでいたが現在は住宅費を節約するために両親と同居している。ブラジルに帰国しようか日本に永住しようかと迷っているが来年3ヶ月家族でブラジルに行って義母と生活を共にしてブラジルに帰国するか日本に永住するか決めたいとのことである。

末っ子である少年の回りには中学に進学したものの授業についていけず不登校になり自宅で母親の内職を手伝いながらほそぼそと生活している少年達が数人いる。日本では中学は義務教育であるが外国人は義務ではないが就職もできないで困っているブラジル人の子供も大勢いる。何とか就職できてがんばっている者もいるが低賃金で生活は苦しい。日本は学歴社会であるので高校や大学を卒業していないとよい職には就けないのである。また、ブラジルと日本を行ったりきたりしてどちらが本当の故国なのかわからないような子供もいる。言葉もポルトガル語と日本語の両方を話す子供も多い。2ヶ国間で育ち生活をしてきた子供達はセルフアイデンティティの形成に問題を抱えているようである（関口、2003年）。

子供の教育

では、子供の教育はどこで受けさせたいと考えているのであろうか。日本かブラジルかそれともその他の国か質問してみた。その結果教育はやは

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

りブラジルで受けさせたいと考えている者が最も多く32.6%であった。次は日本の25.6%で残りの19.8%はその他の外国である。その他の外国としてあげられていた国はアメリカ、イギリスなどである。やはり、両親がブラジル生まれの場合にはやがては帰国するという考えがあるので子供はブラジルで教育を受けさせたいということであろう。しかし、日本に永住することを決意した場合には子供の教育も日本で受けさせたいと考えているようである。

勤務形態

派遣会社から紹介された仕事はほとんどが臨時雇いで正社員になるには何年か勤務経験がなければならない。正社員として働いているブラジル人は16.3%だけである。残りの者は全員臨時の派遣社員やパートである。したがって、いつ解雇されるかわからない不安定な状態での就業である。それでも仕事があるうちは一生懸命働くだけである。先のことまで考えてはいられないのである。仕事がなくなったらまた次の仕事を派遣会社に紹介してもらえばよいのである。もちろん中には自分から仕事を辞める者もいる。賃金や条件が悪い場合や人間関係が原因で辞めるのである。辞めたらまた派遣会社に頼むか友人の会社に頼んで就職するかである。

転職回数

日本での転職経験はどの程度あるのであろうか。まだ一度も転職したことがない者は14%いるが滞在年数がまだ短い者は転職経験もない者が多い。一番多いのは転職３回で23.3%である。次は２回で16.3%である。８回転職したという者も１人いた。平均すると3.63回である。この場合転職といっても自ら進んで転職したのではなくて派遣先の企業の都合により解雇されて仕方がなく新しい勤務先を紹介してもらったというケースが多いのである。

宗教活動

日本でも宗教活動はどの程度しているのであろうか。質問したのが現在教会に通っている信者なので毎週教会に行くという者が最も多く、83.7%を占めている。時々行くという者も9.3%いる。滅多に行かないという者が4.7%いる。このキャンプには信者だけでなくその友人達も参加していたのである。信者以外の人間も大歓迎され皆に温かく迎えられるが勧誘などの活動はあまりしていないようであった。

人間関係

では、日本で生活していて日本人との付き合いはどの程度しているのであろうか。また、日本人の友達は何人くらいいるのであろうか。それとも日本人とはほとんどつきあわないでブラジル人とだけつきあっているのであろうか。日本人の隣近所との付き合いはしているとの回答が20.9%で意外と少ないようである。全然していないという回答の方が多くて29.1%である。付き合いといっても挨拶程度しかしていないという回答が最も多くて46.5%である。挨拶程度では付き合いをしているとはいえないだろう。しかし、付き合いたくても言葉がわからなければ会話もできないので付き合いもできないであろう。子供が通っている学校との付き合いもしている者としていない者とがちょうど半分ずつである。

友人数

では、日本人の友人は何人くらいいるのであろうか。一人もいないという者が14%もいる。このような人たちはブラジル人だけと付き合っていて日本人とは全然付き合っていないのであろうか。言葉がわからなければ付き合いたくても付き合うこともできないかもしれないがブラジル人とだけ付き合っていては日本語も覚えることができないであろう。日本人の友達が１人だけいるという者が14%いるが沢山いるという者も19.8%いる。多分このような人たちは日本に長年滞在しており、日本語も堪能な人たちであろう。平均すると26.09人である。では、ブラジル人の友達は何人ぐらいいるのであろうか。１人もいないという者はさすがにいない。100人もいるという者が最も多く57%で過半数を占めている。それ以上いるという者も5.9%いるが平均すると78.90人である。では、日本人でもブラジル人でもない外国人の友達が何人くらいいるか質問してみた。１人もいな

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

いという者が14%いるが残りの者は5～10人位いる者が多い。平均7.43人である。その他の外国人とはペルー、チリ、ボリビアなどからの出稼ぎ労働者である。

派遣会社の満足感

ほとんどのブラジル人は派遣会社から仕事を紹介されて仕事をしているが、ではその派遣会社にはどの程度満足しているのであろうか。大変満足しているという回答は少なく12.8%で、満足していると普通（どちらでもない）という回答が同じでそれぞれ24.4%ずつである。不満足が19.8%であまり満足していないようである。では、派遣会社にどのようなことを望んでいるのであろうか。この質問は自由回答で次のような要望があった。

約束を守ること、正直にして欲しい、ウソをつかないで欲しい、もっとブラジル人を理解して欲しい、ピンハネを少なくして欲しい、もっと賃金を上げて欲しい、もっと色々な面で助けて欲しい、人間としてもっと親切に、丁寧に扱って欲しい。病院に付き添って欲しい、日本語を教えて欲しい、子供の面倒を見て欲しいなどがあげられている。日本に来て言葉もわからない状態で生活を始めるには色々な不安や困難があるだろうことは想像できる。派遣会社に仕事の紹介をしてもらい工場に通うようになる。これで仕事は確保でき生活の基盤はできるが生活そのものがまだ不安定である。まず1番先に必要なのは住む場所である。すぐにアパートなど見つからなくてひとまず友人の家や親戚の家に居候させてもらいながら探すのである。また、毎日の食事を作る材料の買い物はどこに行けばいいのか、子供の保育や教育はどこでするのか、銀行での口座開設、ビザが切れる前に延期手続きをしなければならない、もし病気やけがをしたら病院に行かなければならないが言葉が通じなければ病院にも行けないであろう。このようなとき派遣会社に仕事の紹介だけでなく色々な面でも面倒を見て欲しいと希望しているようである。さらに、賃金も派遣会社が間にはいると中間手数料を取られるので手取りが少なくなる。少しでも沢山のお金を短期間で稼ぎたい出稼ぎ労働者達はこのピンハネが我慢できないようである。少しは仕方がないがピンハネ額が多すぎると感じている労働者が多いようである。

その他の要望としては家族や子供の面倒を見て欲しい、公平に扱ってほしい、アフターケア、仕事の拡大、友好関係、銀行員とのコミュニケーション、送迎、派遣会社なしで自分で仕事を探す方がいい、学歴は関係ない、有給が欲しい、買い物に連れて行って欲しい、郵便物の受け取りや読むことを手伝って欲しいなどがあげられていた。実際に日本の会社からきた郵便物に何が書かれているのか理解できないので私に内容を読んで知らせて欲しいと頼まれたことがあった。これらのほとんどは日本語が理解できれば解決できるものである。中には言葉の問題ではないものもある。例えば、賃金の問題は日本語ができても同じ仕事で低賃金である。その場合には派遣会社に頼まないで自分で仕事を探せば2カ国語を使って出来る仕事などを見つけることもできるであろう。

日本での問題点

では、日本で生活していてどんなことが問題となっているのであろうか。最も多いのは言葉の問題である。言葉が通じなければ色々な場面で困るであろう。テレビを見ても何もわからなければおもしろくないであろうし、仕事をしに行ってもどのようにしたらよいのかもわからなければ働くこともできないであろう。このよう場合には通訳が仕事のやり方などをポルトガル語で説明してくれる。一度覚えてしまえば後は同じことを繰り返すだけの単純な仕事なら言葉がわからなくてもできるわけである。買い物はスーパーなら言葉が理解できなくても買いたい物を買い物かごに入れてレジでお金を払えばよいのであるから言葉を話す必要はない。しかし、どうしても言葉が理解できないと困る場合もある。病気やけがをしたときには病院に行かなければならないがポルトガル語が通じないと病状の説明をすることもできない。郵便物がきても内容がわからない。電話がかかってきても何を言っているのかわからない、会社での上司の指示もわからないようでは不都合が起こるであろう。

次に多いのがこれも言葉に関係しているが言葉がわからないのでコミュニケーションが取れないと言う問題である。言葉が理解できなければコ

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

ミュニケーションはもちろんできない。それを解決するには言葉を学ぶしか方法はないのである。ブラジル人に取って会話よりも漢字を覚えるのが大変な様である。外国語をマスターするのはそう簡単なことではないので毎日の地味な努力が必要である。言葉がわからない結果、友達もできにくいし日本人との付き合いもできないし淋しくなりブラジルが恋しくなりホームシックになる。日本人は人付き合いが悪いというが、言葉が通じなくては付き合いたくても付き合うことができないのが現実である。

その他の問題として、日本人の生活様式についていけない。例えば、仕事が忙しすぎて自由になる時間や余暇がない。また、日本人の時間厳守の習慣についていけない。人種差別されている、偏見をもたれている等があげられている。

人種差別

では、どの程度人種差別されているブラジル人がいるのであろうか。「日本で生活していて人種差別をされたことがありますか。」という質問に対して過半数のブラジル人が差別された経験があると回答している（66.3%）。では、どんな時に差別をされたのか聞いてみたら最も多いのは職場（14人）である。特に上司からの差別が最も多い。また、買い物に行ったとき（6人）、学校（3人）で、日本に来たとき（2人）、仕事を探しているとき（2人）、アパートを探しているとき（2人）、言葉がわからないとき（2人）、と色々な場所で（2人）差別されたことがあるようである。色々な場所とはインターネットカフェ（1人）で、病院で（1人）、警察（1人）で、領事館で（1人）、その他公共の場で（1人）、小さな町で（1人）、ブラジルで（1人）などという回答があった。また、色々なところで命令される（1人）とか呼び方で（1人）差別されているとか、外国人嫌いに差別された（1人）、1人が悪いことをするとみんな差別される（1人）という回答もあった。

これらの差別もほとんどが言葉の問題ではないかと思われる。言葉が通じないと何を言っているのか理解できないのでその結果差別されていると感じるのではないだろうか。もし、コミュニケーションがしっかりできていればお互いに意思疎通ができるので差別されていると感じることは少なくなるのではないだろうか。お互いに理解できないので誤解が生じているのではないだろうか。もしよくコミュニケーションできていても差別を感じるようならそれは本当の差別かも知れない。

問題解決

では、このような問題がある時には誰に相談しているのであろうか。家族に相談する者が最も多く54.7%で過半数を占めている。やはり、家族は最も身近で何でも相談できる相手であろう。家族がいない場合には友人に41.9%が相談している。親戚や会社の同僚にはあまり相談しないようである。

日本の生活でよい点

何も悪い点ばかりではなく日本での生活にはブラジルと比較してよい点もたくさんあるのである。「日本の生活で良い点はありますか」という質問に対して「すべてよい」と回答したブラジル人も7人いたが、最も多い回答は、セキュリティ、治安（37人）がよくて犯罪が少なく（3人）、平安、平和（12人）な社会だということである。経済も政治も安定していて仕事（10人）もたくさんあり、サラリーも高いし失業率も低く経済格差が少ない点も評価されている。景気がよくて何でも自分のしたいことができるし便利である。また自然も美しく町も清潔である。教育程度も高く家庭内教育もしっかりしており文化面でも優れていて生活が快適である。日本人は健康で忠実で時間厳守し、秩序や規律を守り、常識があり正義感が強く決まったことは実行するなどよい習慣がある。他人を尊重し自由な社会である。組織やインフラ、公共施設が整っておりすべてにおいて完全であると少しほめすぎのきらいもある。

ブラジルの生活でよい点

しかし何といっても生まれ故郷は最も懐かしく一番であろう。「日本よりブラジルの方が良い点はありますか？」という質問をしてみた。最も多いのは友人関係（15人）家族関係（15人）人間関係が楽しい、暖かい（17人）という回答である。

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

それと関係して接客、皆の気持ち、社交性、社会生活、すべてがよいという回答もある。またブラジル人の方が愛嬌があり、陽気で親切で謙遜しているという回答もある。またブラジルの方が土地、住宅が安く、スペースが広いので住宅も広くてよいし気候もよく、食べ物も美味しい、戦争もなく差別もなく自由である。余暇と時間もたっぷりあり交通事故も少ない、その他色々よいところがたくさんあるとの回答である。病院・医学や教会活動、メディア、仕事もブラジルの方がいいとの意見もある。これは日本では言葉が通じないので良さを実感できないためであろう。教会もポルトガル語で礼拝を提供しているところが身近にないので遠い所まで行かなければならないので不便だと感じているのであろう。

ブラジルでの問題点

その反対に「日本よりブラジルの方が悪い点はありますか」と質問してみた。その結果最も多かったのは、セキュリティ、治安（34人）が悪く、バイオレンス、暴力（16人）、犯罪（6人）、汚職（4人）、盗み（2人）、などが多いというものである。また、経済（6人）、給料（8人）、仕事（9人）、教育（3人）、組織（2人）、自己管理（1人）、秩序（2人）、安定（2人）、しつけ（2人）、不公平（2人）、交通（事故）（2人）、台風（1人）、マナー（1人）、職場でチャンスとお金がない（1人）、価値観（1人）、インフレ（1人）、政治（1人）、社会問題（1人）、生活様式（1人）、お祭り（1人）、ダンスパーティ（1人）、生活状態（1人）、尊敬（1人）、みじめ（1人）、すべて（3人）などという回答がみられた。

ブラジルのセキュリティの悪さは有名である。ある家族がブラジルに帰国した時空港で手荷物をちょっとおいただけで盗まれてしまったとのことである。また、日常生活でも出かけるときには厳重にカギを掛けておかないとドロボウに何回も入られてしまうとのことである。たとえカギを掛けておいてもドロボウに入られてしまった家族もいる。日本から郵便物を送っても届かないことが頻繁に起こる。日本の様にそこら中に設置してある自動販売機は置けないとのことである。そのようなものを置いたらすぐに丸ごと盗まれてしまうとのことである。誘拐事件も多いし安心して住むことができないので日本に永住したいという家族もいる。

4．今後の課題

以上、日系ブラジル人労働者の日本での生活に関してセブンスデイ・アドベンチスト信者の例を紹介してきた。この信者達は大変熱心で毎週欠かさずに教会に通っているし、教えを守ってお酒も飲まないし、タバコも吸わない大変真面目な人たちである。しかし、その他のブラジル人による犯罪が増加しており社会問題になっている。調査期間のたった3週間の間にも毎週のようにブラジル人による犯罪が発生して新聞記事になっていた。例えば、8月11日の静岡新聞に掛川でブラジル人が包丁で同じアパートに住むフィリピン人の男性を刺して殺人未遂で逮捕されたとの記事が載っていた。また、8月28日の静岡新聞には菊川市の幼稚園や公民館などにペンキで落書きがしてあったとのことである。落書きの内容がブラジルの人気歌手の歌詞ということでブラジル人が犯人であるだろうとのことである。さらに、日本で犯罪を犯したブラジル人が外国に逃亡した場合に外国人犯罪人引き渡し条約をブラジルとの間で締結を求める署名活動をして犯罪被害者の遺族にブラジル人の署名348人分を届けたとの記事も8月9日の静岡新聞に載っていた。警察庁によると外国に逃亡したとみられる外国人容疑者は2005年651人おりそのうち中国人が281人で最も多く、次がブラジル人の86人である。現在犯罪者引き渡し条約を締結しているのはアメリカと韓国だけであるがブラジルとも同じ条約を締結する運動が各地で起こっている。インターネットでもブラジル人犯罪被害者の会が署名活動を行っており、8月末までに67万人の署名が集まったとのことである（www.geocities.jp/ritotan2/keitai-i）。

さらに、衆議院議員の片山さつきが7月21日署名26万4千人分を麻生外務大臣に提出し、問題解決に向けた要望活動をしたとのことである（www.satsuki-katayama.com/report.html/）。

その他にも今後の問題として解決されなければ

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

ならない問題が山積みである。日本に長期間滞在する場合には病院や出産費用を国民医療保険で支払えるようにしなければ高額の医療費を負担するのは大変である。ある日系ブラジル人の女性が出産するとき保険がないので高額の出産費用が必要だとわかったがそのような大金を負担できないので国民医療保険に加入したいと市役所に相談に行った。その結果保険に加入することはできたが過去の分まで支払わなければならず結局大金が必要になったのである。

また、日本に永住する場合には将来年金ももらえるように国民年金にも加入できるようにしなければならない。まだ若くて働くことができる間はいいけれども65歳以上の高齢者になった時退職金もなく年金もなく、収入が全然なければ生活できなくなるのは目に見えている。

さらに、日本で生まれ育った子供達の教育問題もある。日本の高校や大学に進学することができれば問題はないが、現在の状況では中学まで何とか卒業できるがそれ以上の教育を受けるのは困難である。これらの問題を解決していかないとブラジル人達が日本で安定した生活を望むことはできないのである。

参考文献

浅田秀子「日本人住民のブラジル人住民に対する意識」『異文化コミュニケーション研究』6：57–68、2003年。

池上重弘編著『ブラジル人と国際化する地域社会』明石書店、2001年。

大西康之、安倍俊廣、小笠原啓編集「こんな国では働けない」『日経ビジネス』、2006年9月11日号 pp. 30–43。

小内透・酒井恵真編著『日系ブラジル人の定住化と地域社会』お茶の水書房、2001年。

静岡新聞、2006年8月9，11，28日

関口知子『在日日系ブラジル人の子どもたち』明石書店、2003年。

都築くるみ「在日ブラジル人を受け入れた豊橋市H団地の地域変容」『フォーラム現代社会学』2：51–58、2003年。

日本経済新聞、2006年9月22日

松宮朝「外国籍住民の増加にともなう県営住宅の現状と地域的展開（1）」『社会福祉研究』7：63–70、2005年。

山本かほり「愛知県西尾市におけるブラジル人の生活実態とその定住化（1）」『社会福祉研究』5：55–66、2003年。

山本かほり・松宮朝「地方都市におけるブラジル人住民の増加と地域再編過程—愛知県西尾市の事例から—」『他文化共生研究年報』3：3–27、2006年。

http://www.geocities.jp/ritotan2/keitai-i/

http://www.satsuki-katayama.com/report.html/

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

Japanese-Brazilian Workers' Life in Japan:

Members of a Seventh Day Adventist church

ABSTRACT

This paper describes the life of Japanese-Brazilian workers in Japan investigated by interviews and a questionnaire survey. The Seventh Day Adventist members in Shizuoka-ken were selected and these Brazilians are all members of the Seventh Day Adventist church in Kakegawa city.

I participated in their annual meeting at summer camp for 5 days and asked them to answer questionnaires and interviewed them. I asked them when and why they came to Japan, how long they intended to stay in Japan, problems they have in their daily life and occupational life, etc.. I also attended their weekly service at their church on Saturdays to observe their activities. As a result, I found that their biggest problem is communication due to the language difference. This problem causes other problems such as with human relationships, racial prejudice, children's education, etc..

Key Words: Japanese-Brazilian workers in Japan, Seventh Day Adventist,

NII-Electronic Library Service